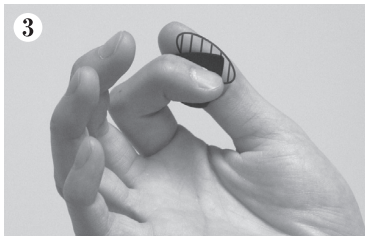
注意点1 右手

親指を弦に当てて ハーモニクス音を出そう

激しいハード・ロック・リフの中で、突如“ギョワー！”と倍音豊かに唸るピッキング・ハーモニクスのインパクトはかなり大きい。リフの印象を大きく変えることができるピッキング・ハーモニクスは必ず覚えたいところだ。この強力なサウンドは、弦をピッキングすると同時に右手親指でピッキングした弦に触れることによって生み出される（**写真①&②**）。弦に触れる親指の部分は、**写真③**のあたりなので確認してほしい。実際に弾く際のコツは、親指を弦を押しつけるようにピッキングすることだ。しかし、親指の角度やピッキングする位置によって、サウンドが出なかったり、音質が大きく変化するので、いろいろと研究してほしい。

“触れる”よりは“打つ”という感じで親指を弦に当てる。

慣れるまでは、やや深めにピックを当てると良い。


弦に触れる親指の部分は、斜線のあたりだ。

注意点2 左手

和音ビブラートは 2本とも同じ振り幅で！

ここでは、2本弦による和音ビブラートを解説しよう。かのトニー・アイオミは、“ロック・リフの中でコードを揺らすことで、バンド・サウンドに厚みを与えた”と語っていたが、コードにビブラートをかけることで、リフまでも歌わせることができるのだ。まず2本弦をビブラートさせる時に注意しなければいけないのは、2本とも同じ振り幅で揺らすことだ（**図1-a**）。2本の揺れが違っていると、チューニングが狂っているように聴こえてしまう（**図1-b**）。これを避けるためには、2本弦を押弦している指の形をキープさせた状態でビブラートをかけることが大切だ。この形が崩れた分だけ揺れ方が変わってしまうので注意しよう。

図1-a　良い2本弦ビブラート

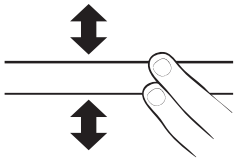
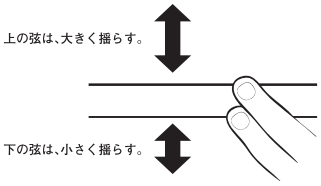


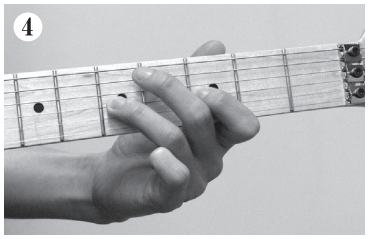
図1-b　ダメな2本弦ビブラート

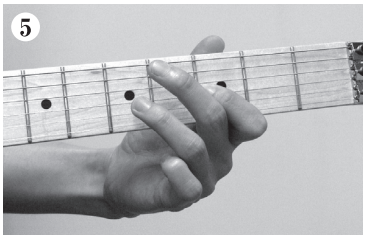


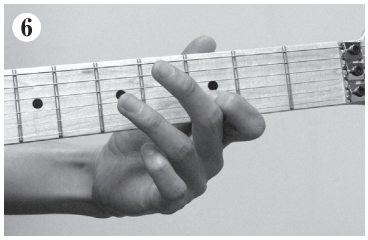
注意点3 左手

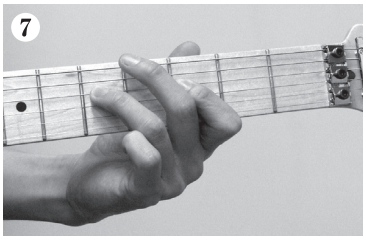
高速6連トリルは 2本指セットの移動で対応

このフレーズを弾く際には、ブリッジ・ミュートとピッキング・ハーモニクスの位置をしっかりと把握し、さらに3小節目3＆4拍目の6連トリルを注意すれば良いだろう（**写真④～⑦**）。この高速トリル・フレーズは、2本指による通常のプリングと開放弦に向かうプリングの連続技となっていて、さらにピッキング・ハーモニクスを入れることで強力なものに仕上がっている。これは、3弦5フレットを薬指で押弦すると同時に3弦3フレットを人差指で押弦するようにすれば、素早く音をつなげていくことができるだろう。4弦に弦移動した際も同様で、常に薬指と人差指がセットになるように押弦するようにすると良い。


薬指押弦時には、人差指も押弦しておく。


薬指によるプリング。この時、人差指は動かないように注意。


人差指によるプリング。離弦した瞬間に2本指とも移動。


ここでも薬指と同時に、人差指も押弦すること。